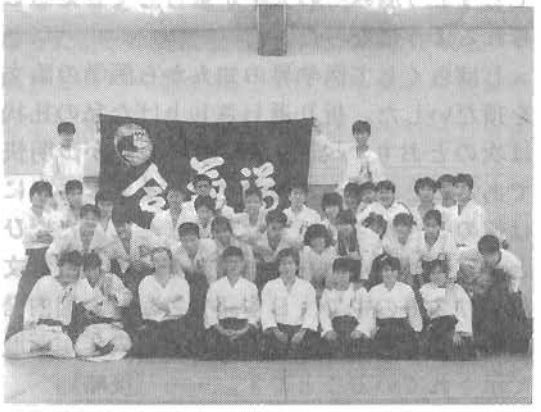
プロジェクトとは言いながら，上述の概要等を見るかぎり，それはもっぱら放送大学のためだけの事業のように思われるかもしれない。しかし，試行部局である総合科学部は，このような機器と教材を備えた「ビデオ学習センター」を一般および専門の教育にどのように利用し得るかという問題を検討課題として最初から持っているのであり，そのために「放送大学広島地区ビデオ学習センター試行調査委員会」というワーキング・グループも設けている。この委員会では，まずセンターに備えられる機器や教材を見た上で，それらが大学の教育方法等の改善にどのように利するかを検討するつもりだが，いずれにしても，放送大学の教材や教育方法をそのままある特定の学部の授業に用いるとか，いわゆる「単位互換」の制度に結びつけるとかなどということは考えていない。これは「ビデオ学習センター」と広島大学，特に，総合科学部における教育との関係に関して，最後にぜひ触れておきたい点である。

サークル紹介

合気道部―― その歴史をとおして ――

教育学部学生　廣　永　優　子



我が合気道部は，本年度をもって第二十代となる新入生を迎えることになった。どちらかといえば，まだ，その歴史は浅い方だ。しかし，今でこそ，体育会合気道部として活動できているものの，その二十年の間には，諸先輩方の並々ならぬ努力があったことを，私たち現役部員は忘れてはならないと思う。

私達，現役部員は，四年間のクラブ活動において，四回ほど，三途の川に片足をつけそうになる。その一つとして，初段特別お祝い稽古というのがある。お祝いのはずなのに，なぜか，投げて投げて，まるで，古雑巾のように投げられまくる。

しかし，人間というものは不思議なもので，自分が極限に立った時，自分でも信じられないほどの力が出るものだ。そして，三途の川から，はいずり上がると，そこには，「感動」という，何とも，つかみどころのない何かがこみ上げる。この稽古が終わると，決まって部長が，色紙をくださる。「古趣創生」そこには，そう書かれてある。百の万の言葉よりも，私たちは，身をもって，その言葉の意味を知った。

二十年間，短いようで長く，また，浅いようで深いこのクラブの歴史の中で，時代は変わっても人の心を動かすものは何も変わってはいないのだ。

四年生となった今，引退を目前に控えて，私は，なるべく多くの人に，この感動を味わっていただきたいと心からそう願う。